

アマゾンの森を守る誇り・ブラジル先住民族大集会

～ 日本の農村とアマゾンをめぐる課題を「里山」の視点から考える

下郷さとみ・ジャーナリスト

2023年12月23日

[主催] スープのよろずや「花」

[共催] 未来をつむぐ安房の会





“

森が清らかな水と空気を生む。
森が人類すべての命を、
地球のすべての生き物の
命を支えている。
森を守れ。
全先住民族の力を結集して
立ち向かえ！

”

カヤポ民族大長老
ラオニ・メトゥティレ



2023年7月24日～28日 先住民族大集会

ラオニ長老の呼びかけにより、カヤポ民族
ピアラス村に全国から54民族1000人が集結

アマゾン熱帯林南東部/マトグロッソ州北部
カポトジャリーナ先住民族保護区

写真：下郷さとみ

気候変動、生物多様性・・・地球規模の問題とリンクする若い世代

タイリ・テレーナ

セラード(サバンナ)地方 テレーナ民族

環境アクティビスト。国連「先住民問題に関する常設フォーラム」に参加



“国連の報告によれば、世界の先住民民族は全人口の5%を占めるにすぎないが、先住民が生きる土地に地球の全生物種の8割が存在している。私たち先住民族が地球の生物多様性を守っている。”

“地球環境問題をめぐる国際会議には、先住民族の公式参加枠が用意されるべきだ。”

(2023年7月 先住民族大集会で)

気候変動

2023年 記録的酷暑

ブラジル

酷暑

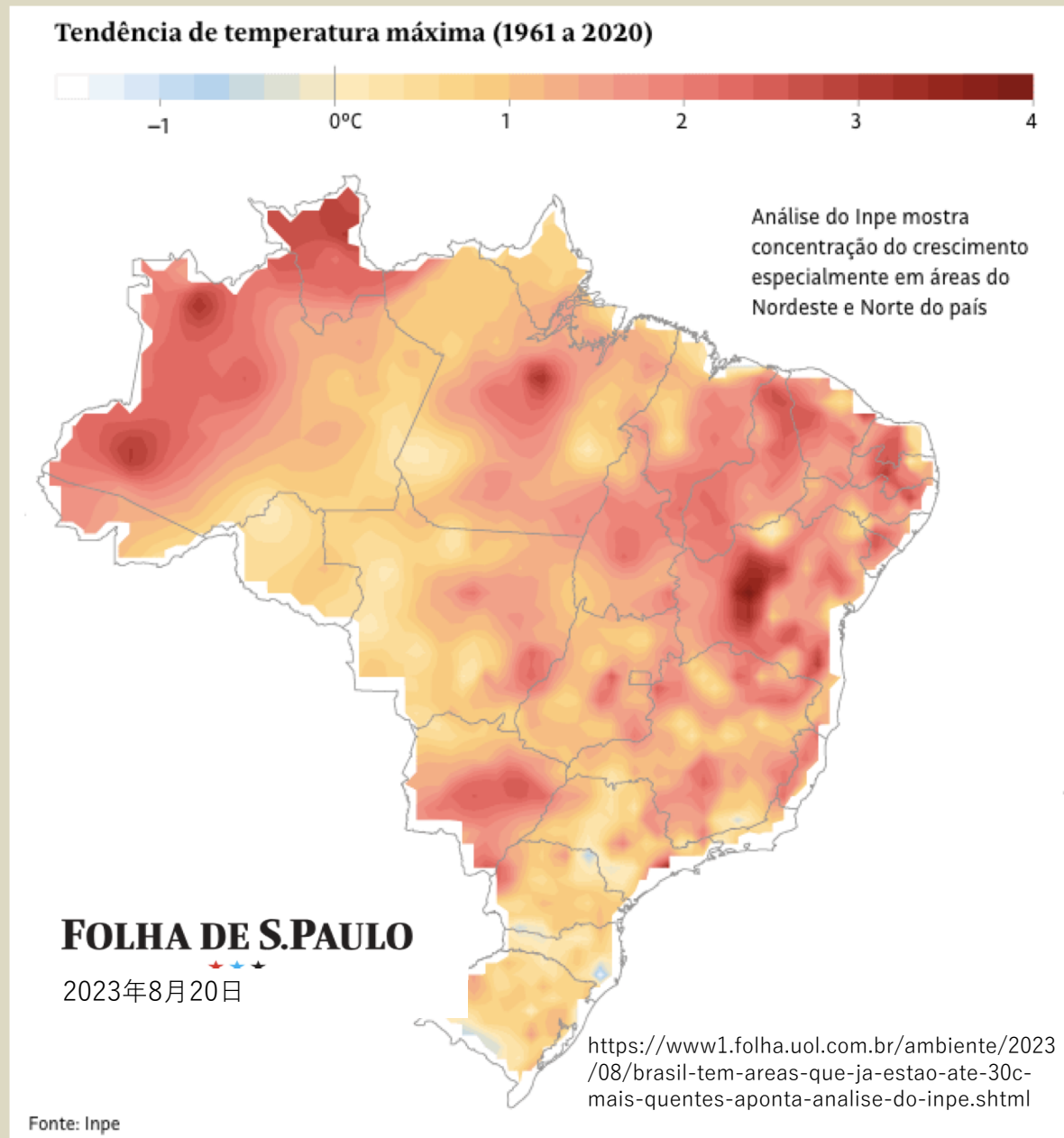
2023年11月（ブラジルでは初夏）、リオやサンパウロでは体感温度が50°Cを超える日も

高温化

1961年～2020年の30年間で最高気温が最大3°Cも上昇（北部、北東部の一部地域）

砂漠化

2023年11月、自然災害観測警告国立センター(Cemaden)が「ブラジル史上はじめて国内に砂漠地帯が出現」と発表（ブラジル北東部バイア州の一部地域）



2023年9月
ブラジル最南部（温帯地方）

リオグランデドスル州 大洪水

O Globo: 2023.9.12

2023年9～10月
ブラジル北部（アマゾン地方）

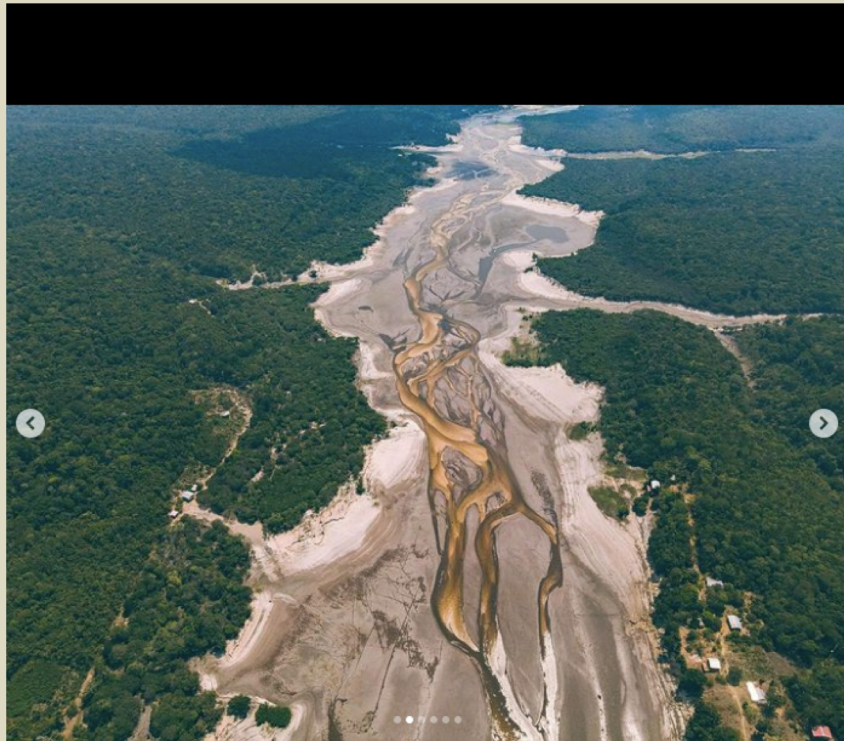
アマゾン川流域大旱魃

g1

RIO GRANDE DO SUL



Casas submersas em Lajeado (RS) nesta quarta-feira (6) após a passagem de um ciclone. — Foto: Diego Vara/Reuters



写真家 Tadeu Rocha インスタグラム
2023.10.6

<https://www.instagram.com/p/CyB9MkTuFce/>

水位低下・水温上昇による水棲生物の大量死

アマゾンカワイルカ



魚類



アマゾンマナティ



Amazon Destinations (Destinos da Amazônia) YouTubeチャンネルより

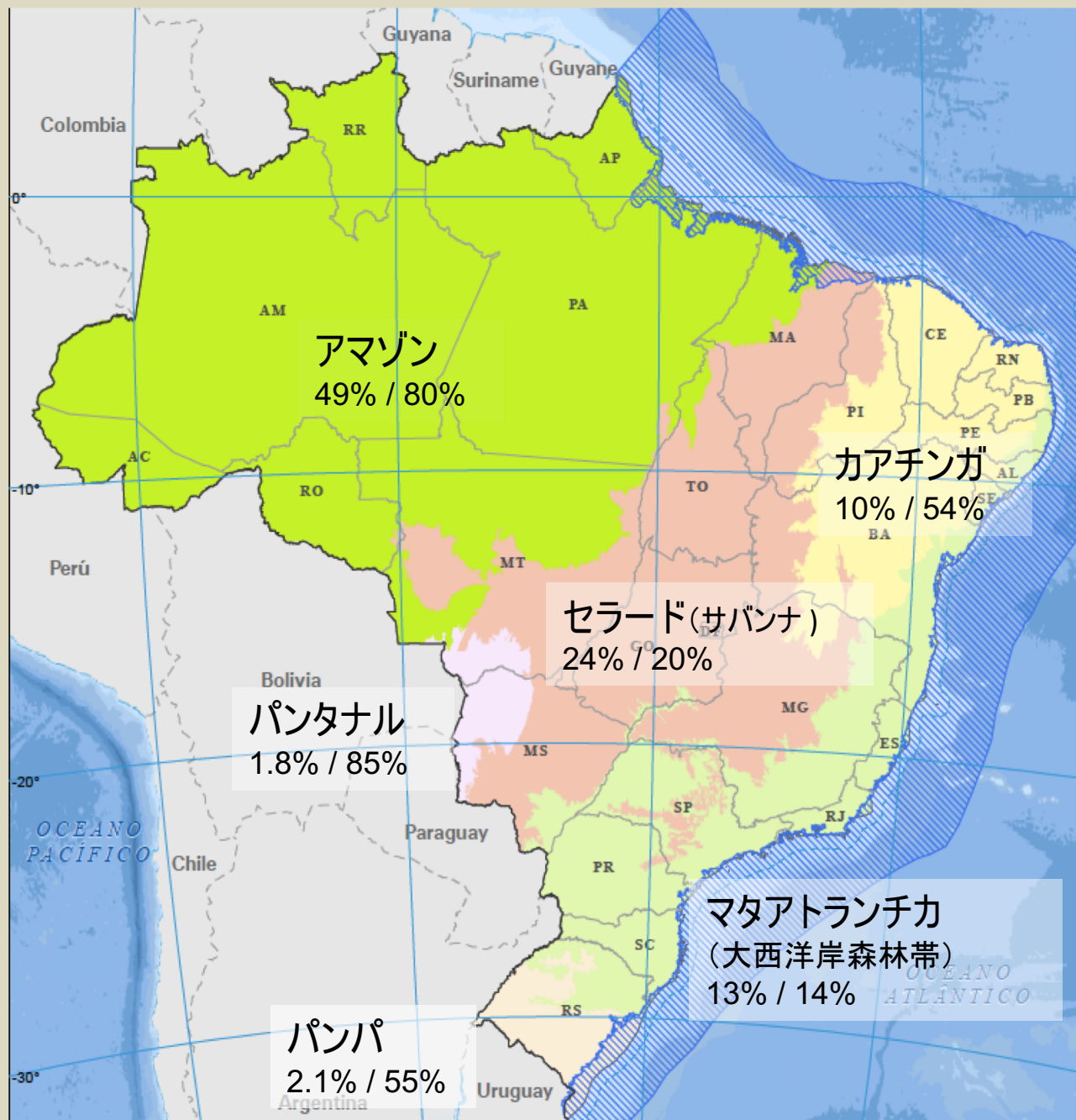
<https://www.youtube.com/watch?v=e7YGu89FWRg>

ブラジルの バイオーム (生物群系)

数字：

左 国土に占める当初面積

右 残存率 (2019)



アマゾン

世界最大の熱帯林

世界最大の淡水



Google Map

世界の地上淡水量の15%が存在

流域面積 690万km²：地球の陸上面積の5%，南米大陸の40%を占める

- ・南米9カ国に分布，ブラジルが占める割合63%
- ・ブラジルのアマゾン熱帯林面積 420万km²＝国土面積の49%（日本の11倍）

ブラジル 先住民族

アマゾン南東部
シンゲー川源流域の
先住民族保護区
カマユラ民族の村



2022年 国勢調査

IBGE, FUNAI : 2022年

人口およそ**169万人**

(ブラジル全人口の0.83%)

全国に **305 民族 / 274 言語** (2010年)

- ・先住民族人口の51%がアマゾン地方に居住
- ・先住民族人口の36.73%が先住民族保護区(先住権と占有権を保障された土地)に居住
- ・当初人口(1500 年ポルトガル人初上陸時) : 推定およそ300~500万人。1000万人という説も一時、民族消滅の危機に : 約7 万人にまで減少(1957年)



ポルトガル語→複数の民族言語
への同時通訳サービス
2023年7月「先住民族大集会」



写真：下郷さとみ

アマゾン地域の 保護区の森

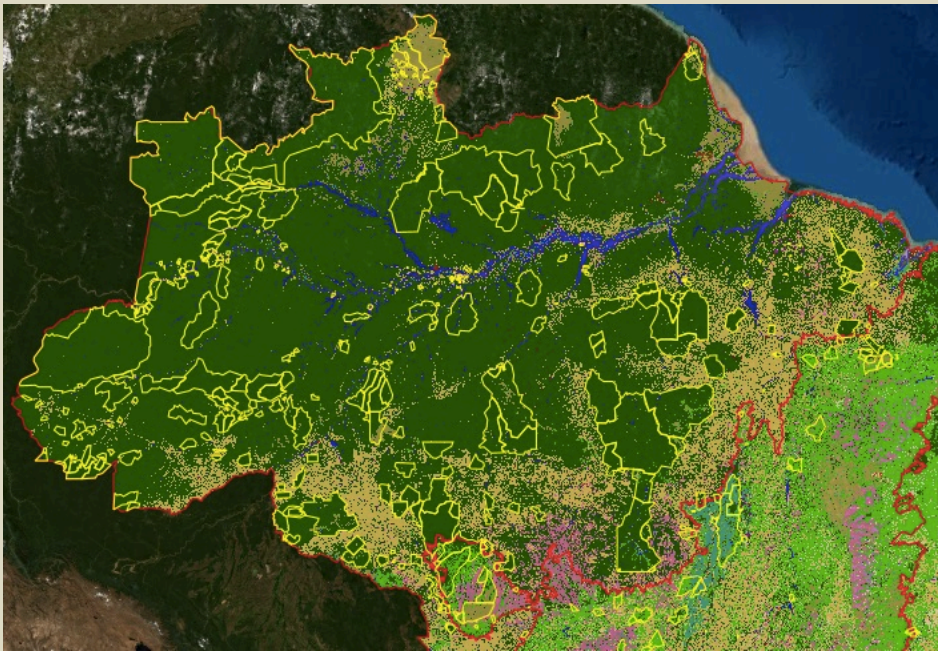
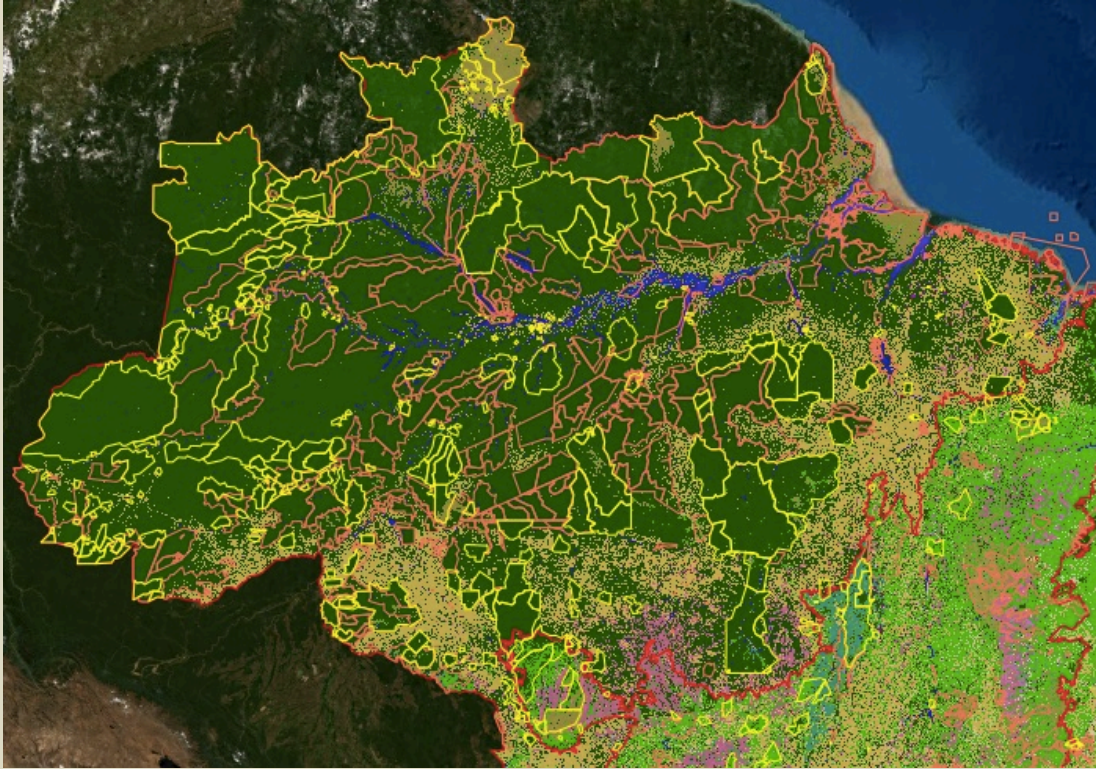


先住民族保護区



自然保護区

(MAPBIOMAS)



先住民族保護区は アマゾンを守る最後の砦

自然保護区は議会の承認によって
指定解除が可能だが、
先住民族保護区は土地への恒久的権利が
憲法によって保障されている

ブラジル先住民族の法的権利の変遷

1916年 – 旧民法

“森の民”は法的な制限行為能力者であり国家による後見を必要とする人々である。 →1988年憲法により廃止

1934年 – 旧憲法

”森の民”の土地占有権(=居住と土地利用の権利) に初めて言及。

*1960年、国内初の先住民族保護区「シングー先住民族公園」が誕生

1988年10月5日施行 – 現憲法

”森の民”がブラジルの先住民族であることを認め、
先住権と土地占有権を保障。

国は憲法施行日から5年以内に先住性が認められる
全ての土地の境界画定(demarcação=先住民族保護区に認定)を
終了しなければならないと規定。

固有の文化・風習を保持する権利を保障。
固有の文化に配慮した教育や医療サービスの提供を保障。



アマゾン南東部シングー川流域に広がる先住民族保護区の森

写真：下郷さとみ



シンガー川 Rio Xingu 上流部

写真：下郷さとみ



シンガー川の源流域に広がる先住民族保護区の森

写真：下郷さとみ



シンガー川・源流部
(先住民族保護区内) :
乾燥化が進む近年は、
乾期(4~9月)の終盤に
水位が下がりすぎて、
ボートでの移動に困難を
きたすことも稀ではない

写真：下郷さとみ

アマゾンの 「里山」



湖畔にたたずむカマユラ民族の村（シンガー源流域）

写真：下郷さとみ

カラパロ民族の村
シンガー川・源流域

この地域の民族に特徴的な
総茅葺の家



カヤポ民族の村
シンガー川・上流域

板壁とヤシの葉で葺いた
屋根が特徴

アマゾン先住民族の村は「里山」だ

「里山」とは …

人間にとって過酷な存在である自然に対して、
壊さない程度に（＝持続可能な方法で）
働きかけ、手を入れることで、
人が居場所と生活の糧を得る場所



シンガー川源流域 写真：下郷さとみ

総茅葺の住まい
村の周囲には
入会地としての茅場が広がる
結による茅の葺き替え





森と川の恵み
自給自足の暮らし



シンガー川源流域～上流域 写真：下郷さとみ



焼畑による農耕
数千年の伝統



写真：下郷さとみ



再生する森



《土作りをしない・必要としない農業》

先住民族が行う小規模の伝統的焼畑は、アマゾン熱帯林という自然環境に最も適した持続可能な農業である。

シンガー川源流域 写真：下郷さとみ